

梅の栄

長唄

全詞章

祝儀曲

鶏とりが啼なく吾妻あづまの東ひがしに立たつ春はるの、明あけて目出度めでたき島台しまだいを、富士ふじと筑波つくばにたとへし、遠近山をらこちやまも

白妙しろたへや、まだ旧ふるからぬ春はるの日に、残のこんの雪ゆきのとけ初そめて

空そらも長閑のどかにそよくと、旭あさひも匂におふ梅うめの風かぜ、四方よもにわたりて軒端のきばもる、屠蘇とその香かりや梅うめもさけ

彼の薄陽かじんやうの伝つたへ聞きく、猩々舞しやうじやうまふあらねども、さす手引てひく手ての盃さかづきに、ほのめく

色いろのともうつり、薄紅梅うすこうばいの酔ゑひごころ

開ひらく扇あふぎの末広すゑひろや、声こゑもゆたかに四海波しかいなみ、静しづけき御代みよにうぐひすの、いつか来啼きなきて花はなの笑ゑみに

小羽子こばねの子の数かずふるも、ひとふた三重みつへの初霞はつがすみ

曳ひくや綾緒あやをの糸竹いとたけも、長ながき齡よはひの鶴亀つるかめや、替かはらぬ色いろを松竹まつたけに、千代ちよの声こゑそふ喜三きさが春はる、梅うめの栄さかえと

世よに広ひろく、三みつの緒琴をごとに祝しゆくす一ひと卜ふし節